

## 温泉入浴に関する、新型コロナウイルス感染予防対策について

### 1. はじめに

コロナ感染の予防にとって大事な点は、飛沫、接触感染を避けることです。頻繁に様々なところで指摘されている「社会的距離 Social distance」を十分に確保することが重要です。温泉施設の狭い閉鎖空間において近距離で多くの人と会話をすると、感染のリスクが高いため注意が必要です。この状況下を踏まえると、温泉でも他の施設等と同様に三密（密閉、密集、密接）の回避、入浴前後のマスクの使用、手洗い、手指消毒の徹底、会話と咳嗽を極力控えることが対策としてあげられます（厚生省ホームページ：感染予防、一人一人が出来る対策）。

また、新型コロナウイルスの特性は、細菌ではなくウイルスです。70度以上、5分で不活化される報告はありますが一般の39～42度の湯温で不活化させることは困難で、例えば、浴室の換気を十分に行い、密集入浴を避ける、浴室の十分な清掃など、一般のコロナウイルス対策をしっかりと行うことが重要になってきます。

一方、温泉入浴は、身体の痛みを緩和させ、不安やストレスの解消など心身に有益な効果も多いです。新型コロナウイルスに対する温泉入浴の影響について十分な研究がなされているわけではありませんが、基礎的研究では温泉入浴で一般的な免疫機能の改善の可能性も示唆されています（「温泉療法による免疫機能の変化」新温泉医学P178-183）。適切な感染予防を行った上で温泉入浴を行うことは健康維持につながると考えられます。

### 2. 感染症に対する基本的対策と知識

#### 1) 利用客同士、従業員の接触を可能な限り少なくし感染対策を行う

接触感染、飛沫感染予防として、利用客同士、従業員の接触を可能な限り少なくし感染対策を行きましょう。

#### 2) 定期的な換気、入浴時間の分散、浴室の清潔保持

新型コロナウイルスの特徴を考え、定期的な換気、入浴時間の分散、浴室の清潔保持が重要になってきます。特に、壁や入浴備品に付着したウイルスは数日間生きていることが確認されており、清掃には使い捨て手袋が重要です。また浴室の清掃には石けん、水洗いでもある程度の効果は認められており、アルコール消毒の併用が重要となってきます。

#### 3) 浴槽内での新型コロナウイルス繁殖の可能性は低い

通常の入浴に供する湯温による新型コロナウイルス不活化は望めないが、温泉で従来から行われている管理方法に基づく湯の塩素消毒管理がされている場合（遊離残留塩素濃度を1日2時間以上0.2～0.4mg/L：循環式浴槽におけるレジオネラ症防止対策マニュアルについて、厚生労働省、2001）、水道水以上の塩素濃度となるため、浴槽内での新型コロナウイルス繁殖の可能性は低いと考えられます。

### 3. 接触感染予防対策

利用客、従業員はドアノブ、筆記用具、テーブル、脱衣家具等の入念な消毒が必要です。ウイルス飛沫の目、鼻、口への侵入を限りなく少なくする方を講じてください。

### 4. 飛沫感染予防対策：黙浴の勧め

フロント、長時間滞在する場所での大声を上げたりすることを控え、人との距離を十分に保つ必要があります。浴室はマスクを着用できない空間のため、会話をしない（いわゆる「黙浴」）、咳やくしゃみが出る時は、タオルで口を覆うなどの対応を行ってください。脱衣室では速やかにマスクを着用しましょう。

### 5. 社会的距離の確保

利用客、従業員相互の密を避けた、最低1m、出来れば2mを確保しましょう。このことは、入浴場に限らず、館内のすべての空間で確保してください。

6. 館内消毒の徹底

浴場出入り口のアルコール手指消毒、施設内の定期的消毒、入浴関連備品の消毒を徹底してください。

7. 利用客の健康状態管理

発熱、咳嗽などのコロナ感染症状のある利用者は、施設の利用、入浴を控えてください。

8. 従業員に対する施設側の対応

新型コロナウイルス感染症の症状のある従業員は、上司に連絡し出勤せず、診断治療を優先して医師の診断、治療に専念してください。従業員が濃厚接触者となった場合、仕事を中止し保健所等の指示に従い医療機関受診や自宅待機を行ってください。ワクチン接種は個人の判断によりますが、感染防御の観点からはワクチン接種が望ましいです。

9. 入浴関連品物に対する対応

コップ、櫛、ドライヤー等共通に使用するものは使い捨てか、こまめに消毒を行ってください。  
アルコール消毒は、休憩所を含め人的交流のある場所では時間を決めて定期的に行ってください。  
(利用客、従業員等には、無症状感染者がいる可能性を常に考え、感染予防に努めてください。)

10. 最後に

温泉施設では他の施設と同様の感染対策が必要です。  
十分な感染症対策の上、温泉を適切に利用してください。

2021年11月1日

一般社団法人 日本温泉気候物理医学会

理事長 宮下 和久

広報委員長 武田 淳史